

【志布志市】 校務DX計画

第4次産業革命ともいわれる人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の技術の急速な進展に伴い、これらの先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わる「Society5.0」時代の到来が予測されている。

加えて、今後の我が国においては、少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少による労働力の不足や公共サービスの低下などが懸念されており、ICT、AI、ロボットなどの活用は、経済社会水準維持のためにも不可欠になっている。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界全体にデジタル化の飛躍的進展をもたらし、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）、メタバースの活用、Web3.0等の推進に向けた環境整備が加速していく中で、教育の分野においてICTを活用することが特別なことではなく「日常化」するなど、今後の校務の円滑化、効率化等の観点から学校における校務DXを更に推進していくことが不可欠である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、以下の取組や検討を行い、校務DXを進める。

【クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進】

本市の小・中学校全ての教職員に県域アカウントが付与されており、クラウド環境を活用した情報共有や連絡等が可能な環境下にある。

自己点検の結果を踏まえ、クラウドツールの活用等による好事例等を情報収集し、教職員向け研修、研究・協議会等を通じて継続的な支援を行い、積極的な活用の推進を図る。さらには、適切な勤務時間管理等を前提とした校務のロケーションフリー化により、働き方の選択肢を増やし、安全かつ働きやすい環境の実現を目指していく。

【FAX・押印の原則廃止に向けた業務の見直し及びペーパーレス化の推進】

本市においては、会議等において、サーバー等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を学校間で共有したりできる環境下にある。

校務のクラウド環境を更に整備することにより、同期型・非同期型の共同編集を可能にし、文書の修正プロセスを大幅に効率化したり、各自の隙間時間を使って修正やコメント、決裁を行ったりすることができるようにしていく。また、教職員が児童生徒と同様にクラウドツールを活用して対話的・協働的な職員会議や分掌ごとの打合せ等を行うことができる環境づくりを更に推進することで、多様な意見を可視化し、議論を活性化していくとともに、クラウドツールによる校務の効率化を図っていく。

【統合型校務支援システムの活用の推進】

本市においては、統合型校務支援システムを活用することにより、指導要録、出席簿、学校日誌、保健日誌等を一元管理し、必要な情報を迅速に共有できる環境下にある。

GIGAスクール構想による1人1台端末と高速ネットワークの一体的整備やクラウド活用により、膨大な学習系データが生成されつつあるため、学習系と校務系ネットワーク

の統合による、円滑なデータのやり取りを行い、データを生かした教育の高度化を図っていく。

【次世代の校務システムの導入に向けた検討】

次世代の校務DXにおいては、共同調達の枠組みなども有効に活用しつつ、以下の事項を可能な限り実現していくようにする。

働き方改革の 観点	① 汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を図る。
	② 校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化を組み合わせることで、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を推進する。
データ連携の 観点	③ 校務系・学習系システムを円滑に接続させることにより、それぞれのシステムが持つデータを低コスト・リアルタイムで連携を図る。
	④ ③によりデータ連携が容易となることを踏まえ、各種データをダッシュボード機能により統合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図る。
レジリエンスの 観点	⑤ 学校の業務に関する主要なシステムをクラウド化することにより、大規模災害等が起きた場合にも業務の継続性を確保することができるようにする。